釣瓶落しと中秋の名月と冬の望月

高田 友

「秋の日は釣瓶落し」と云へり。日の暮るるの速きを云ふ。奇ッ怪なるかな。日の落つるの早きは冬の方秋かたよりも速やかなるは周知の事實、何を以てか冬ならで秋の日を釣瓶落しとは言ふ。

抑々日没の時刻をグラフに描きたらむには、その形状、正弦曲線 (sine curve) を描くは理の當然。然しからばすなはち則、上方を遅き時刻とすれば、曲線の上方の頂点は夏至の日にして、下方の頂点は冬至の日。變曲點は春分および秋分なり。

以此觀之、夏至冬至の時分には日の入りの時刻は前日前々日と大差なし。然しかりしかうして而、春分の前後には前日前々日よりも甚だしく遅し。さらに、秋分こをもちての時候には前日前々日よりも甚だしく速やかなり。是以古人は「昨日に比して今日の日の落つること、何爲此は早き」と吃驚したるならむ。以是日の沈むを釣瓶の井戸に落つるに裝よそへたりとは知るべし。

「仲秋の名月」と謂ひ、また「中秋の名月」といふ。いづれを採るべき。

四季を各々「孟・仲・季」に分け、舊曆一月を「孟春」、二月を「仲春」、三月を「季春」と名付く。然則、「仲秋」とは八月の異名。

而して、「中秋」とは「秋の眞中の日」の謂ひにして、八月十五日の意なり。

いふに及ばず、「仲秋の名月」とは「八月の名月」、「中秋の名月」とは「八月十五日の名月」にして、その指す所いささかも異なる所なし。

偕（扱扱）、秋の最中の望月（望月）は、何を以てか、春夏冬に追隨を許さざる美しき月と見做さるるに至りたりや。些かの考察を加へむと欲す。

満月は夏には低く、冬には高し。さは何の故ぞや。

満月は太陽の對極に在り。換言すれば太陽・地球・月と相並ぶの時の月亮（moon）なり。すなはち地球より見れば、冬の満月は夏の火輪（sun）の位置に在るに由りて中空に輝き、夏の満月はその逆の理を辿る。

古人もこの理を知りて、

鳩にほの海や月の光の移ろへば浪の花にも秋は見えけり

とこそは詠ひたれ。

「鳩」とは、如今「かいつぶり」と稱よなへらるる鳥の謂ひにして、近江の海（琵琶湖）に澤（さわ）に見らるるに據りて、此の海を「鳩の海」とは言ふ。

「浪の花」とは「波頭」の意。白きがゆゑに花に準ふ。なぞら
秋の訪づるにつれて満月は高く昇り、その光いよいよ曄く。月の光明ければ、波頭の白きもいよいよ目に氣爽けざややかなり。これによりて、波頭の色を見れば秋の來れるを知るを得とぞ詠ひける。秋には満月の光いよいよ清きやかなれば、これを名月として讚へたるなり。
なほ、唐土の古人は、月に巨大なる桂の木ありて、秋には紅葉するに由りて、月の光の増すとは理會したり。

先週火曜日一月十四日(2025)は舊曆十二月十五日にて満月なりき。

翌朝、日の出の頃に起き出でて五味棄てむとて外に出でたるに、西の方遠く、朝焼けの中に富士の絶景を望むを得たり。富士の上、稍北ややの方に沈まむとする満月を見る。

眞に美しき望月にて、麗しき人の満面にゑみを浮べたまひたる珠たまの御顔おんかほせを彷彿せしむるに足る。

この時、茲許こゝハツと氣付きたるの儀あり。冬の満月は中秋の名月よりも麗しきにあらずやと。寔まじに理の當然、冬の満月は金鳥きんう(sun)の對極にあれば、秋よりも明るく耀くこと、疑念を容るるの餘地なし。

しからば、何故に、中秋の名月とのみ讚嘆せらるるに至りたりや。

第一には、夏には玉兔ぎよくと(moon) 盈みちたりといへども、南の空低くして、光度も貧弱なり。然らばとて、秋になりて夏よりも空高くに曄くを見て、麗しき月の復活したるに安堵して「仲秋の名月」を祀りたるに相違なし。

第二には、秋には氣候清涼にして、縁えんに薄うすと團子を備へて月見をするに相應しき夜を迎ふるを得れども、冬は寒冷窗まどを開けて月見をせむと欲するの時候に非ず。よりて、あたら美しき月を愛めづることなきによりて、冬の名月は忘らるるに至りたるならむ。

惜しむべし。

抑々我家は武藏國の南端に在り。此處より南と西は悉皆相模、而して相模の西に駿河國あり。いはば相模國を越えて我家と富士と相對したれば、富士は相模の奥に在るが如くに見ゆ。既に三年前、東京區部より遷り來りし折り、富士を見て一句を作る。

春霞相模の奥の朧富士

而して、今、富士に掛かる 曉あかつきの望月のゆゑに歌ひたり。

我妹子わなもこを思ひ出ではあるべしや相模の富士の冬の望月

(令和七年一月十五日受附)